

# ナショナル・レジリエンス（防災・減災）懇談会（第7回）

## 議事概要

〔日時：平成25年8月8日（木）15:15～17:00〕  
〔場所：中央合同庁舎第4号館共用620会議室〕

### 【議事次第】

1. 各ワーキング・グループの検討結果の報告
  - ① WG1「情報通信」：山下委員から報告
  - ② WG2「サプライチェーン」：佐々木委員から報告
  - ③ WG3「沿岸部複合災害&コンビナート」：柏木委員から報告
  - ④ WG4「東西分断」：森地委員から報告
  - ⑤ WG5「リスクコミュニケーション」：金谷委員から報告
2. プログラムの対応方針及び重点化について
3. その他

### 【意見交換の概要】

（藤井座長）

- ・資料4「45プログラムの中でとりわけ大至急対応が必要な『重点プログラム』における施策例」は、重点化すべき15のプログラムを進めるにあたって具体的にどのようなことをするのか、という視点で私の方で整理した施策例である。

（古屋大臣）

- ・重点化すべき15のプログラムは、懇談会委員の意見、過去の災害等の実態、地方公共団体の考え方、与党の意見等を総合的に判断して選定したもの。
- ・藤井座長から提案のあった施策例は、いずれも重要なものであり、速やかに検討に入るとともに、できる限り各府省庁における平成26年度の予算要求に盛り込んでもらいたい。

（金谷委員）

- ・プログラムについては提案のあった方向で進めてもらいたい。
- ・一方、プログラムとは別に全体論として、レジリエンスの「モデル地域」を公募して、効率的にレジリエンス・コミュニティ構想のようなものを作り上げていくような手法を考えていくべき。
- ・また、レジリエンスを推進する上でのインセンティブを付与する仕組みとして、例えばレジリエンスに関する商品・サービス等について認証・認定する仕組みを考えていくべき。

(尾崎委員)

- ・津波等の災害から命を守るためには、被災直後の医療機能の絶対的な不足を捉えるとすれば、応急期における中核的な課題は、いかに各現地で医療機能を提供できるかということである。そういう意味において、「医療施設及び関係者の絶対的不足・被災、支援ルートの途絶による医療機能の麻痺」を回避するプログラムは極めて重要と考える。
- ・重点化すべき15のプログラム以外の30のプログラムについても、いかに重要なことかを提示し、方向性についても明確に示されているので何もしてないわけじゃないと、誤解を与えないようしっかりとメッセージを発信してほしい。
- ・サッカーにたとえると、ディフェンダー～ミッドフィルダー～フォワードにボールがうまく繋がって初めてゴールになる。今回のプログラムも同じで、川上から川下に至る中でのそれぞれの役割があり、例えば、食料調達ができてトラックに物資が満載できたとしても、道路啓開ができていなければ、支援はうまくいかない。各プログラムの施策相互の連携ができていどうかを確認することが重要、すなわち、誰が誰からボールをもらい、誰にボールを繋ぐのかということを大いに意識して、プログラムをさらに精緻化していくことが重要。

(中静委員)

- ・災害が起こった時に災害廃棄物がどのくらい出て、これをどのように処理するのかについて、平時から準備をしておくことは大変重要な問題であると考え。

(松原委員)

- ・プログラム間で重複している施策もあるので、それぞれのプログラム等が連携を深めながら効率的に進めることが重要。
- ・「もの」を造る際には、建築家等の意見も聞きながら、より自然で、美しく、簡素なかたちとなるよう工夫してほしい。

(小林委員)

- ・強靱化というと、一般的に「公助」の印象が強いのではないかと思うが、国民が公助に期待するばかりではうまくいかない。自助・共助も伴って、国民と行政が双方向で物事を考えながら10年後・20年後に向けてレジリエントな日本人をつくっていくことが重要であるというメッセージを発信する必要がある。

(浅野委員)

- ・今回の強靱化に向けた取り組みは、45の起きてはいけない事態をベースに、省庁の縦割りを打破して国の弱さを浮き彫りにした画期的なものであり、国民にも広く発信していくことが大切。

(山下委員)

- ・今回のとりまとめ案には賛成であり是非進めていってほしいが、プログラムが真の実を得るためには、研究開発・技術開発が伴っていかないといけない。研究開発・技術開発が抜け落ちてしまわないよう、今回のプログラムに沿った研究開発・技術開発について、国による先導、大学等の研究機関への支援、民間研究に係る税制優遇を行うこと等、対応を考えるべき。

(藤井座長)

- ・本日委員の皆様からご指摘いただいた点はいずれも重要な問題であるので、強靱化の取り組みにしっかりと反映していただきたい。

(以上)